

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成23年度農作物病害虫発生予察情報について

平成23年度農作物病害虫発生予報第8号を発表したので送付します。

平成23年度農作物病害虫発生予報第8号

平成23年8月30日
徳島県

I. 普通作物

普通期イネ

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が0.4%、株あたり寄生虫数が0.000頭)。
- (2) 8月5半旬までの時点において、予察灯への誘殺を認めていない。
- (3) 8月26日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、中立的な気象条件である。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が12.0%で平年(33.8%)に比べてやや少ないが、被害葉率が1.8%で平年(0.5%)と比べてやや発生が多い。
- (2) 8月26日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、中立的な気象条件である。

II. 果樹

カキ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%、発病葉率が14.5%であり、平年(58.2%、7.3%)と比べて発生がやや多い。
- (2) 8月26日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、中立的な気象条件である。

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が0.7%, 発病果率が0.1%)。
- (2) 8月26日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または高い確率ともに40%, 降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、中立的な気象条件である。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシともに、予察灯への誘殺虫数は平年よりやや少なめで推移している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					上					板					田丁				
	2011年	2010年	2009年	2008年	平 年	2011年	2010年	2009年	2008年	平 年	2011年	2010年	2009年	2008年	平 年	2011年	2010年	2009年	2008年	平 年	2011年	2010年	2009年	2008年	平 年
8.1	9	29	45	240	55	0	14	1	12	6	0	14	1	12	6	0	14	1	12	6	0	14	1	12	6
8.2	9	12	70	348	70	2	8	1	14	7	2	8	1	14	7	2	8	1	14	7	2	8	1	14	7
8.3	10	26	71	273	69	0	9	1	10	6	0	9	1	10	6	0	9	1	10	6	0	9	1	10	6
8.4	9	56	79	56	50	0	14	2	8	13	0	14	2	8	13	0	14	2	8	13	0	14	2	8	13
8.5	11	19	28	38	43	2	1	2	8	4	2	1	2	8	4	2	1	2	8	4	2	1	2	8	4
8.6		18	48	220	75		22	7	25	10		22	7	25	10		22	7	25	10		22	7	25	10

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					上					板					田丁				
	2011年	2010年	2009年	2008年	平 年	2011年	2010年	2009年	2008年	平 年	2011年	2010年	2009年	2008年	平 年	2011年	2010年	2009年	2008年	平 年	2011年	2010年	2009年	2008年	平 年
8.1	7	84	66	67	74	2	33	11	10	29	2	33	11	10	29	2	33	11	10	29	2	33	11	10	29
8.2	4	27	178	107	84	1	12	16	4	25	1	12	16	4	25	1	12	16	4	25	1	12	16	4	25
8.3	27	57	85	219	126	8	18	10	15	20	8	18	10	15	20	8	18	10	15	20	8	18	10	15	20
8.4	20	220	94	309	130	9	23	7	19	18	9	23	7	19	18	9	23	7	19	18	9	23	7	19	18
8.5	18	89	53	85	105	21	7	5	41	19	21	7	5	41	19	21	7	5	41	19	21	7	5	41	19
8.6		45	108	255	150		27	10	50	18		27	10	50	18		27	10	50	18		27	10	50	18

- (2) 8月26日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または高い確率ともに40%, 降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 果樹カメムシ類は夜行性なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が33.3%でほぼ平年(55.8%)並であるが、発病葉率が14.0%で平年(6.6%)と比べて発生がやや多い。
- (2) 8月26日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または高い確率ともに

- 40%, 降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており, 中立的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「少～中」
- 2) 予報の根拠
- (1) 8月後半の巡回調査では, 発生圃場率が77.8%で平年(39.0%)と比べてやや多いが, 寄生葉率が5.4%, 被害果率が0%であり, ほぼ平年(4.0%, 4.2%)並の発生である。
- (2) 8月26日発表の1ヶ月予報では, 天気は数日の周期で変わり, 気温は平年並または高い確率ともに40%, 降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており, 中立的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アブラムシ類

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少～中」
- 2) 予報の根拠
- (1) 8月後半の巡回調査では, 発生圃場率が33.3%, 寄生新梢率が1.2%であり, 平年(9.7%, 0.5%)と比べてやや発生が多い。
- (2) 8月26日発表の1ヶ月予報では, 天気は数日の周期で変わり, 気温は平年並または高い確率ともに40%, 降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており, 中立的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているの
で, 防除の際には, 葉裏に充分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ハダニ類

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
- (1) 8月後半の巡回調査では, 発生圃場率が55.6%でほぼ平年(35.9%)並であるが, 寄生葉率が1.4%で平年(4.7%)と比べてやや発生が少ない。
- (2) 8月26日発表の1ヶ月予報では, 天気は数日の周期で変わり, 気温は平年並または高い確率ともに40%, 降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており, 中立的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているの
で, 防除の際には, 葉裏に充分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

秋冬ネギ

シロイチモジヨトウ

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
- (1) 8月後半の巡回調査では, 発生圃場率が25.0%, 50株当たり虫数が0.3頭であり, 平年(44.7%, 4.4頭)
と比べてやや発生が少ない。
- (2) 8月26日発表の1ヶ月予報では, 天気は数日の周期で変わり, 気温は平年並または高い確率ともに40%, 降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており, 中立的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 次世代の発生を抑制するためにも, 被害を受けた植物残渣は圃場に放置せず, 確実に処分する。
- (2) 幼虫の齢期が進んだり, 食害して葉の内部に潜むようになると, 薬剤による防除効果が著しく低下す
るので, 早期発見に努め, 若齢幼虫期に防除を行なう。

- (3)ネギの集団栽培地帯においては、フェロモン剤による防除が効果的であるので、適切に使用する。
- (4)フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後3ヶ月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が12.5%、葉の被害度が0.1であり、ほぼ平年(22.6%, 0.1)並の発生である。
- (2) 8月26日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が85.7%、葉の被害度が19.7であり、ほぼ平年(91.9%, 21.6)並の発生である。
- (2) 8月26日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は平年並で推移している。
- (2) 8月26日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は平年並で推移している。
- (2) 8月26日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査5圃場の平均)は平年よりやや多めで推移している。
- (2) 8月26日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並または多い確率ともに40%と予想されており、中立的な気象条件である。

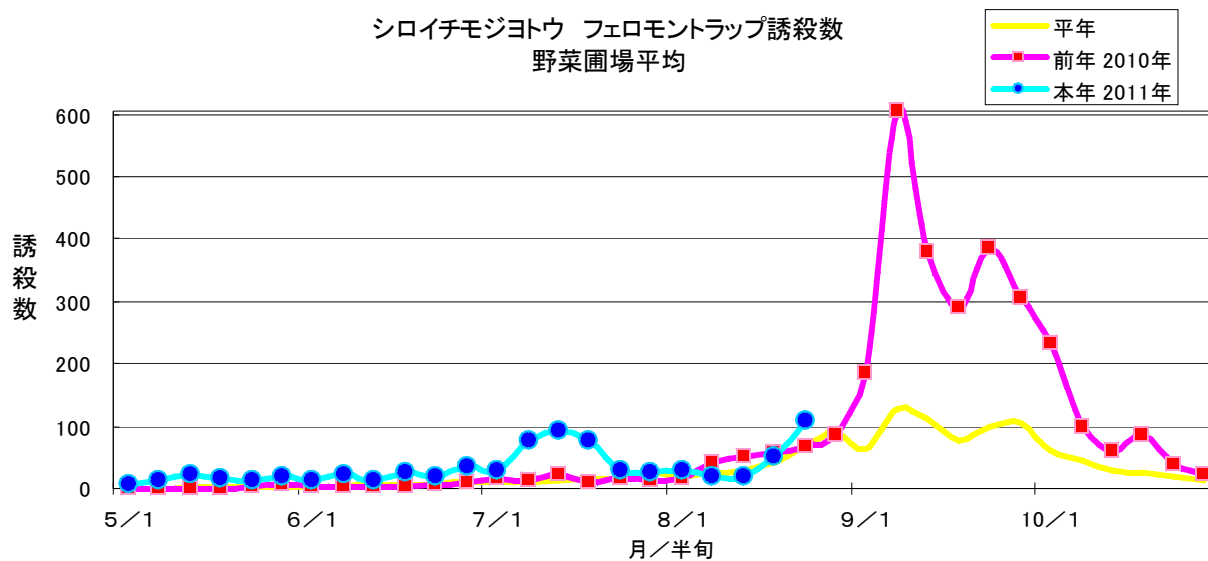
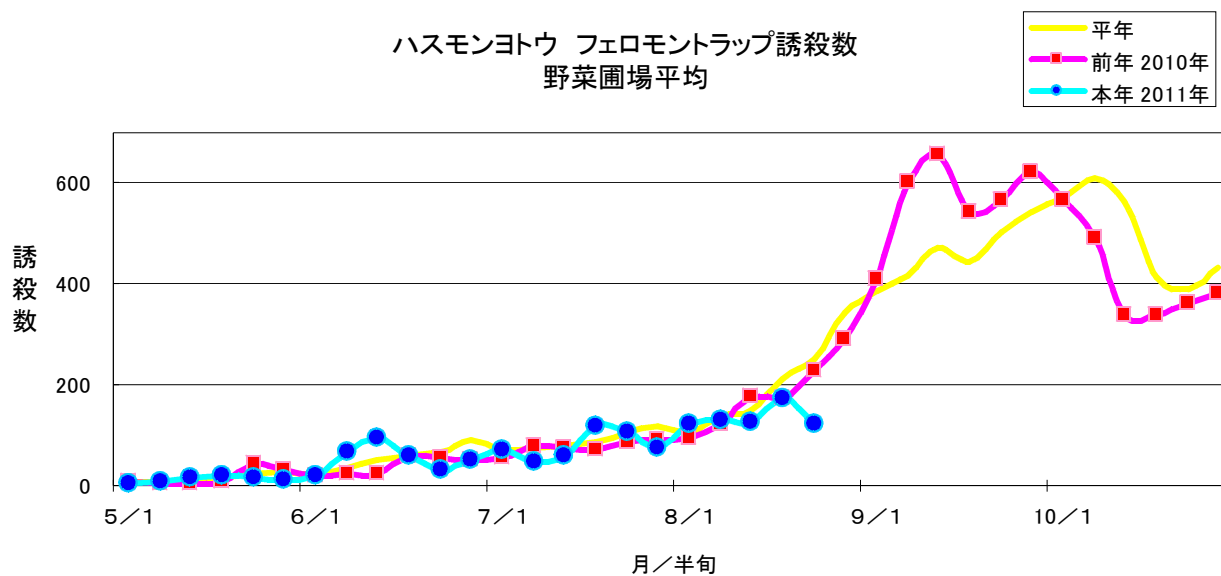
3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行なう。

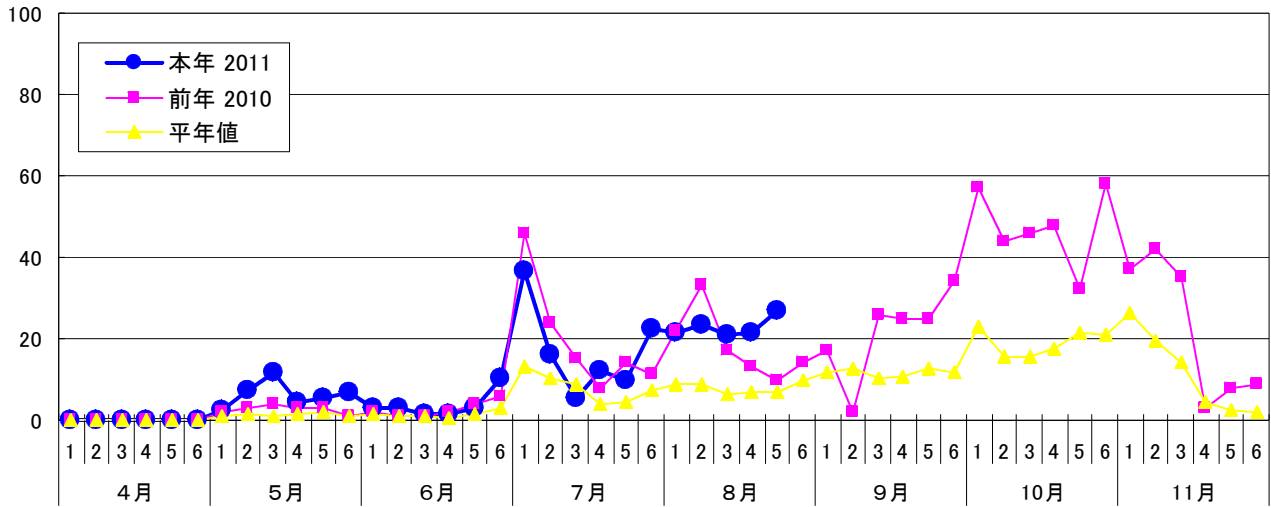
[フェロモントラップへの誘殺虫数]

(調査圃場の平均値)

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2011年	2010年	2009年	2008年	平 年	2011年	2010年	2009年	2008年	平 年
8.1	123	95	67	43	107	27	19	50	26	18
8.2	131	123	77	72	139	19	46	56	37	25
8.3	126	176	70	83	150	18	59	28	42	27
8.4	172	175	119	176	214	51	62	35	73	42
8.5	121	226	234	230	251	109	74	88	153	70
8.6		315	281	210	342		93	79	204	88



オオタバコガ フェロモントラップ誘殺数
全調査圃場平均



調査圃場：石井町, 阿波市(柿原, 香美), 吉野川市(鴨島), 東みよし町(三加茂)

IV. その他

- 1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにして下さい。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 3) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/boujyosyo/>

○病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。